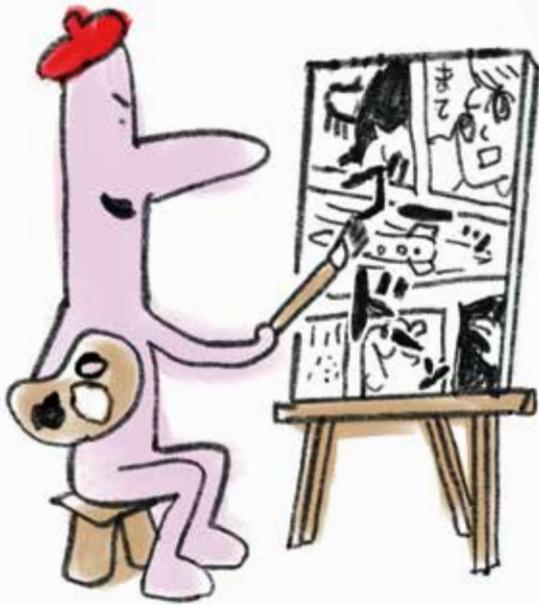


マンガと 芸術って、



「自由の学び舎」で **鼎談**
考える

マンガは芸術か、どっちが上なのか、いや
「上」って何なの、いやいや二つを並べて
何が見えるの、そもそも「マンガ」と「芸術」
の定義って...と、考え出すときりのない問いに、
あなたはどうか向き合いますか？

マンガ家
しりあがり寿

京都精華大学 マンガ学部教員
吉村和真

2023.10.26 THU

16:20 - 17:50

会場 京都精華大学 or オンライン聴講 (要予約)

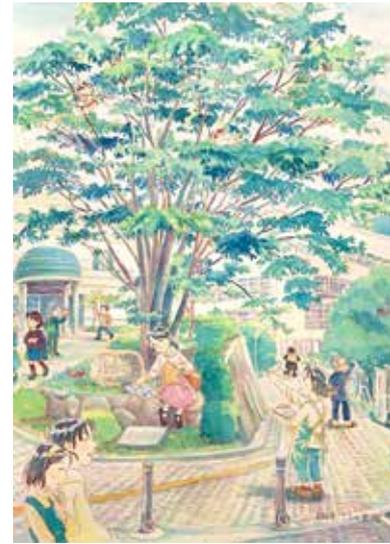
聴講を希望する方はどなたでも対面参加、もしくはオンライン参加いただけます。参加申し込みは「アセンブリーアワー講演会」のWebサイト(右のQRコード)にて受付けます。

京都精華大学 学長室グループ 公開講座事務局
京都市左京区岩倉木野町 137
☎ 075-702-5263 garden@kyoto-seika.ac.jp



マンガと 芸術って、 どうよ

「自由の学び舎」で考える
鼎談



この史代『自由の学び舎』2021
(京都精華大学のキャンパスを舞台にした描き下ろし)

マンガは芸術か、どっちが上なのか、いや「上」って何なの、いやいや二つを並べて何が見えるの、そもそも「マンガ」と「芸術」の定義って…と、考え出すときりのない問いに、あなたはどの向き合いますか。

そこで、マンガ家として幅広い表現活動に取り組む、この史代さんとしりあがり寿さんをゲストに招き、マンガ学部教員の吉村が二人に問いかける形で、このテーマを掘り下げます。

「学問・芸術によって、人類社会に尽くそうとする自立した人間の形成」を使命に持つ、京都精華大学の明日を展望するために。この鼎談、どうよ。

マンガ家

この史代 × しりあがり寿 × 吉村和真

1968年広島市生まれ。1995年「街角花だより」でデビュー。2004年発表の『夕風の街 桜の国』でメディア芸術祭マンガ部門大賞、手塚治虫文化賞新生賞を受賞。07～09年発表の『この世界の片隅に』でメディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞。12～13年発表の『ぼおるべん古事記』(1～3巻)で古事記出版大賞神田阿礼賞を受賞。他の著作に、『びっぴら帳(ノート)』、『さんさん録』、『平凡倶楽部』、『日の鳥』、『ギガタウン』など多数。



マンガ家

1958年静岡市生まれ。1985年『エレキな春』でマンガ単行本デビュー。独自の作風で注目される。幅広いジャンルの著作多数。2011年『あの日からのマンガ』でメディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞。近年は美術の領域にも制作の幅を広げ、2018年「ちょっと可笑しなほぼ三十六景 しりあがり寿 北斎と戯れる」展。(すみだ北斎美術館 / 2022年に小学館より作品集を出版)、2020年「古典×現代 2020時空を超える日本のアート」(国立新美術館)などの展覧会にも出展している。



本学マンガ学部教員

立命館大学大学院博士後期課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員を経て入職。専門は思想史・マンガ研究。主な著作に『「はだしのゲン」がいた風景—マンガ・戦争・記憶』(2006年)、『差別と向き合うマンガたち』(07年)、『マンガノミカタ—創作者と研究者による新たなアプローチ』(21年)など多数。2001年の日本マンガ学会設立、2006年の京都国際マンガミュージアム開館を担当するなど、マンガ研究のための環境整備に取り組む。近年は、自治体のアドバイザーや各種委員など、これまで蓄積してきた研究成果の社会還元を進めている。



京都精華大学 アセンブリーアワー講演会について

「アセンブリーアワー講演会」は、京都精華大学が開学した1968年から55年間継続している大学を代表する催しの一つです。アセンブリーアワーとは「集会の時間」という意味です。学生たちに大学の授業とは別に、芸術や文化、思想に関わる諸問題を考えて欲しいという願いから、学内外の講師を迎える時間を設けたのが始まりです。そこには、学生に世界一流の表現や知性に触れて欲しいという思いも込められていました。この会は学外にも開かれ、毎回多くの人が集まっています。525回の歴史に刻まれた登壇者の名や講義のテーマからは時代の空気を感じられます。

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/lecture/assembly/>

過去の登壇者(抜粋)

- 1960年代: 針生一郎(評論家) / 岡本太郎(画家) / 小松左京(SF作家)
- 1970年代: 寺山修司(詩人) / 湯川秀樹(物理学者) / 大島渚(映画監督) / 吉本隆明(評論家)
- 1980年代: 東松照明(写真家) / 瀬戸内晴美(作家) / 谷川俊太郎(詩人) / 大江健三郎(小説家) / 浅田彰(評論家)
- 1990年代: 河合隼雄(京都大学教授) / 是枝裕和(映画監督) / 村上隆(現代美術家)
- 2000年代: 奈良美智(美術作家) / 東浩紀(評論家) / 富野由悠季(アニメーション映画監督) / 浦沢直樹(マンガ家) / 川上未映子(文筆歌手)
- 2010年代: 角田光代(作家) / 想田和弘(映画作家) / 皆川明(mina perhonen デザイナー) / 東村アキコ(マンガ家)
- 2020年～23年: 斎藤幸平(経済思想家) / 細田守(映画監督) / 村田沙耶香(作家)



寺山修司氏